

大会名称: **第2回東アジアバスケットボール選手権大会**  
**兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選**

開催場所: **中国・南京 南京オリンピックスポーツセンター体育館**

試合区分: **No. 102 男子 予選ラウンド**      コミッショナー: **Zhou ZIN**

期 日: **2011(H23)年6月10日 (金)**      主審: **Elias KOROMILAS**

開始時間: **16:00**      副審: **Jun ZHENG、Kyo-Youn CHOI**

終了時間: **18:00**

チャイニーズ・タイペイ ○ <b>75</b>	13 -1st- 14 14 -2nd- 18 25 -3rd- 17 23 -4th- 25 -OT1- -OT2- -OT3-	● <b>74</b>	日本
-------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------	----------------	----

第2回東アジアバスケットボール選手権大会 兼 第26回FIBA ASIA男子バスケットボール選手権大会 東アジア地区予選、予選ラウンド第1戦。どちらも固い立ち上がりとなるが、守りから組み立てた日本が32-27と5点リードで前半を終える。しかし後半、チャイニーズ・タイペイに1on1から加点され逆転を許す。ラスト3.6秒、#9川村のシュートで再逆転するも、チャイニーズ・タイペイ#11のドライブを守れずファウルを犯し、フリースロー2本決められタイムアップ。74-75で試合終了し、今大会黒星スタートとなった。

第1ピリオド、開始早々チャイニーズ・タイペイが先制点を挙げると、対する日本は#15竹内(譲)のポストプレイ、続く攻撃で#10竹内(公)がダンクシュートで応戦する。その後、両チームともに固さが見られ、得点が伸び悩む。14-13、日本が辛うじてリードし終了。

第2ピリオド、日本は#7広瀬、#10竹内(公)の連続得点で好発進。また持ち前の激しいディフェンスから、#8柏木や#7石崎が立て続けにスティールするも、得点に結びつけることができず我慢の時間帯となる。中盤、ようやく#7石崎の3Pシュートを含む連続得点でゲームが動く。終盤、#9川村の3Pシュートで徐々に点差を離し、32-27と日本リードで終了。

第3ピリオド、チャイニーズ・タイペイは2本のジャンプシュートで先制。開始1分で32-31と1点差に追い上げるが、日本は体を張ったインサイドプレイから#10竹内(公)や#8柏木がファウルをもらい、フリースローで加点しリードを保つ。しかし中盤、チャイニーズ・タイペイは1on1からリズムを掴み、残り2分49秒、41-43と逆転に成功。その後は、#6桜井や#12広瀬の活躍で再び逆転するも、終了間際、相手#4のハーフライン手前から放ったロングシュートがリングを射抜き74-75。日本1点ビハインドで勝負の最終ピリオドへ。

第4ピリオド、日本#6桜井が体制を崩しながらもバスケットカウントを決め勢いに乗るが、相手も譲らず、#11の3Pシュートでリードを保つ。その後、日本は#9川村、#8柏木の連続3Pシュートで応戦、一進一退の攻防となる。だが残り4分、日本はミスからアンスポーツマンライクファウルを犯すと、続く攻撃では#8にダンクシュート、#13に3Pシュートを決められ、68-73と苦しい展開。すかさず日本はタイムアウトを要求し、激しいディフェンスから#9川村の2本連続ジャンプシュートを決め、残り3.6秒、74-73とリードを奪い返す。しかし最後、強引なドライブで勝負を仕掛けた#11がファウルからフリースローを得て、残り0.8秒。このフリースローを2本とも決めタイムアップ。最後の最後で勝利を逃がした日本は、74-75で惜敗し、今大会黒星スタートとなった。

次は、6月12日(日) 14:00(日本時間15:00)より予選ラウンド第2戦、モンゴルと対戦する。

担当者: ((財)日本バスケットボール協会)

(財)日本バスケットボール協会